

消費者動向調査 No.103

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 20 年 10 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 494 人、回答率 98.8%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	7.6
30代	25.3
40代	38.4
50代	21.1
60代	7.6

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	49.2
妻だけ	8.0
両方	42.8

西日本シティ銀行

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

[調査結果本文]

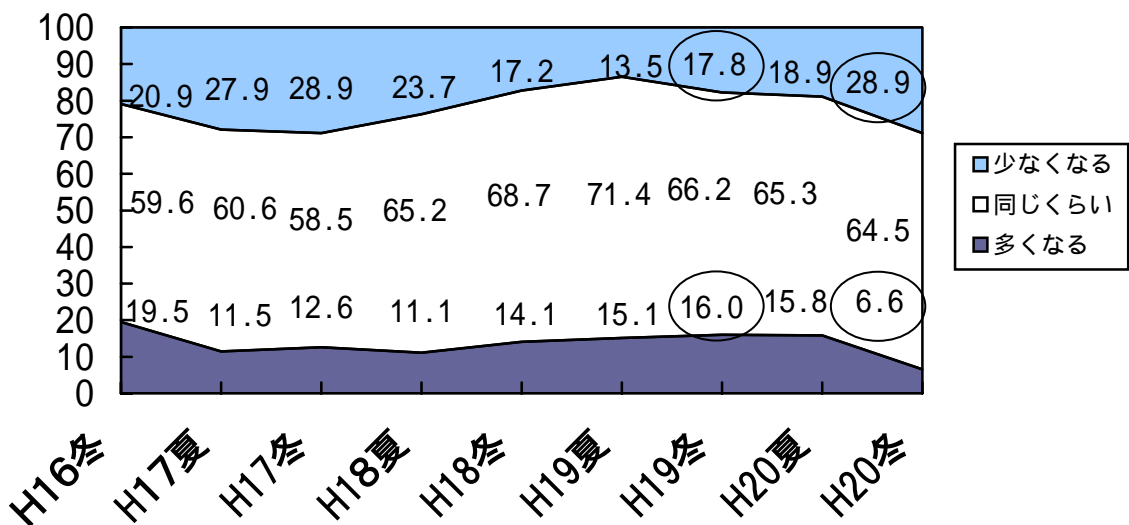
内閣府発表の11月の月例経済報告によると、「景気は弱まっている。」と示しています。米国の金融危機を契機とした世界的な金融不安が広がるなか、景気の先行きも懸念されています。一方、原油価格の下降や円高から、身近なところでもガソリンや輸入商品などの価格が下がる動きもあるようです。

このような環境の中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、昨年の冬と比較して「少なくなる」が11.1ポイント増加。「多くなる」は9.4ポイント減少。

冬のボーナスが昨年より“少なくなる”と予想する割合が11.1ポイント増加。“多くなる”は9.4ポイント減少。1年前の冬よりも、ボーナスが“少なくなる”と予想する割合が約1割増加。

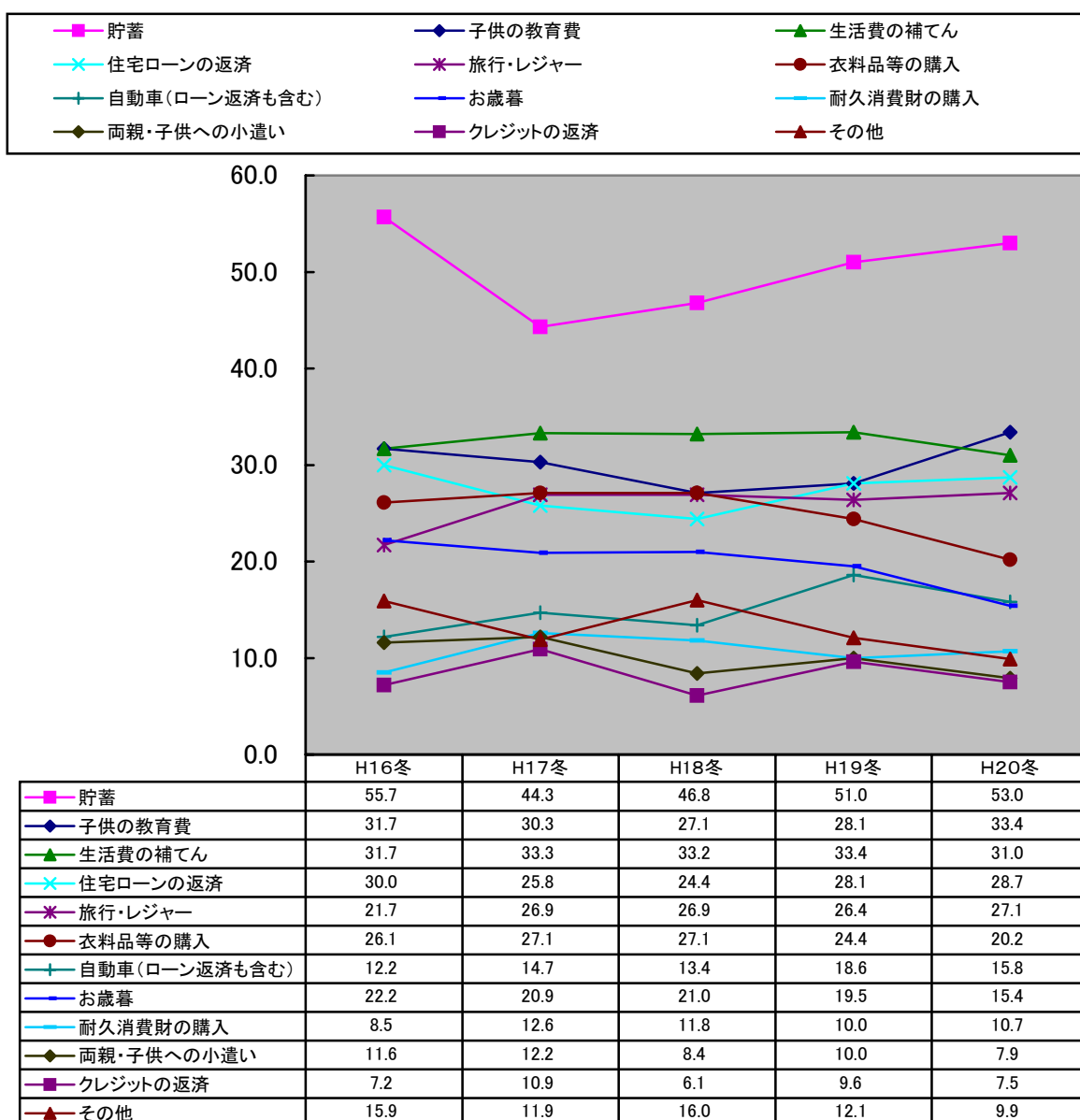
[グラフ1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]
(単位：%)



冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で 53.0%。2位は「子供の教育費」で 33.4%。

冬のボ - ナスの支出予定トップは「貯蓄」で 53.0%。これは平成 5 年夏の調査開始以来連続のトップで、直近の 3 期間その割合は増加している。また、平成 19 年冬に比べ「衣料品等の購入」が 4.2 ポイント、「お歳暮」が 4.1 ポイント減少する一方、「子供の教育費」が 5.3 ポイント増加。「旅行・レジャー」は 0.7 ポイント増加のほぼ横ばい。消費は必要最低限に抑え、教育やレジャーなど目的のあるものには支出する、メリハリをつけた傾向がうかがえる。

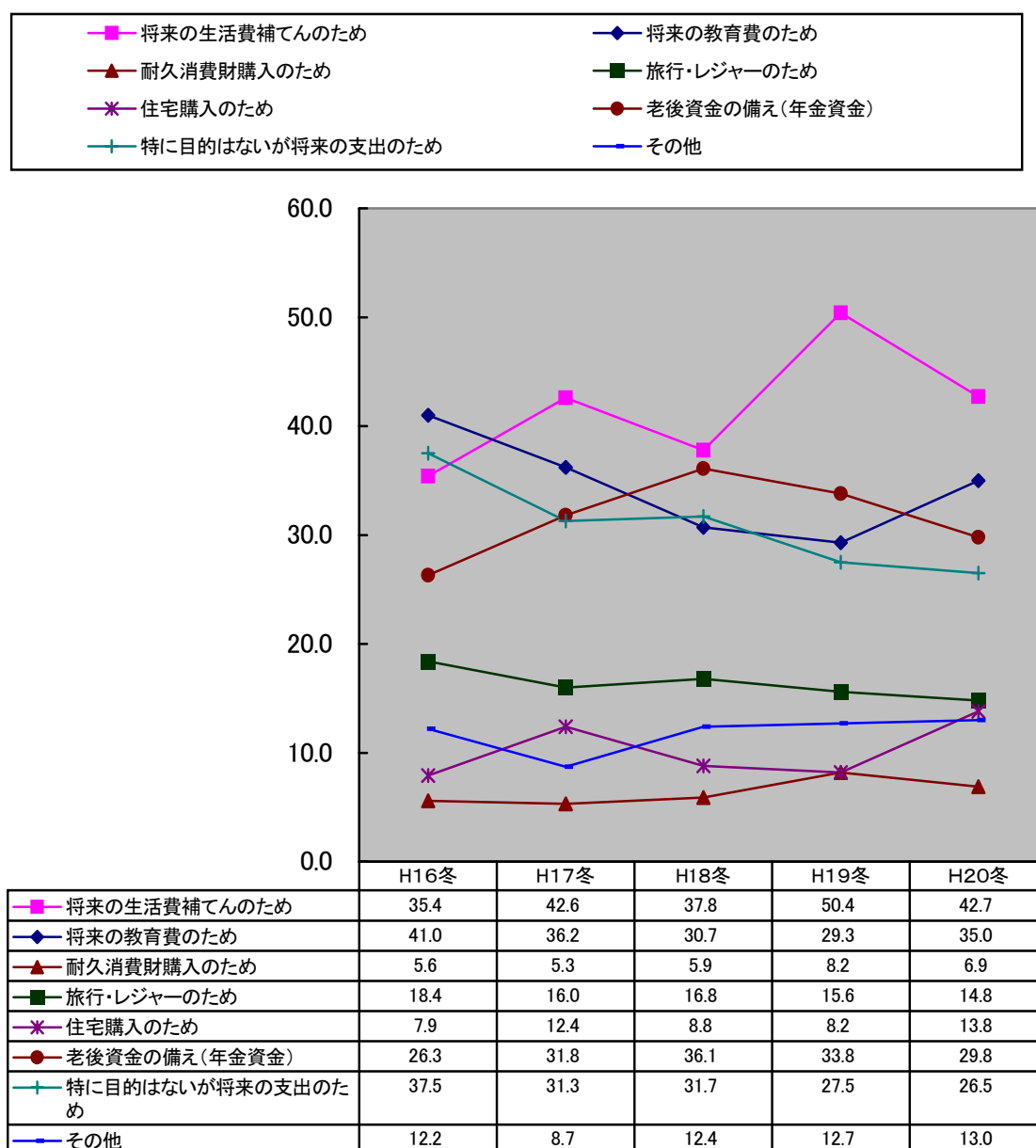
[グラフ 2 : 冬のボーナスは何に使う予定ですか (3 つまで)] (単位 : %)



◆ボーナスを貯蓄する目的のトップは、「将来の生活費補てんのため」が42.7%で1位。次いで「将来の教育費のため」が35.0%で2位。

冬のボーナスを貯蓄する目的のトップは、昨年の冬に比べ7.7ポイント減少するも「将来の生活費補てんのため」が1位。次いで「将来の教育費のため」が5.7ポイント増加し、35.0%で2位。「住宅購入のため」も5.6ポイント増加。日々の生活防衛が定着してきたのか、ボーナスの貯蓄目的は、生活費の補てんが減少し、教育費や住宅購入など将来の目的のための貯蓄が増えているようだ。

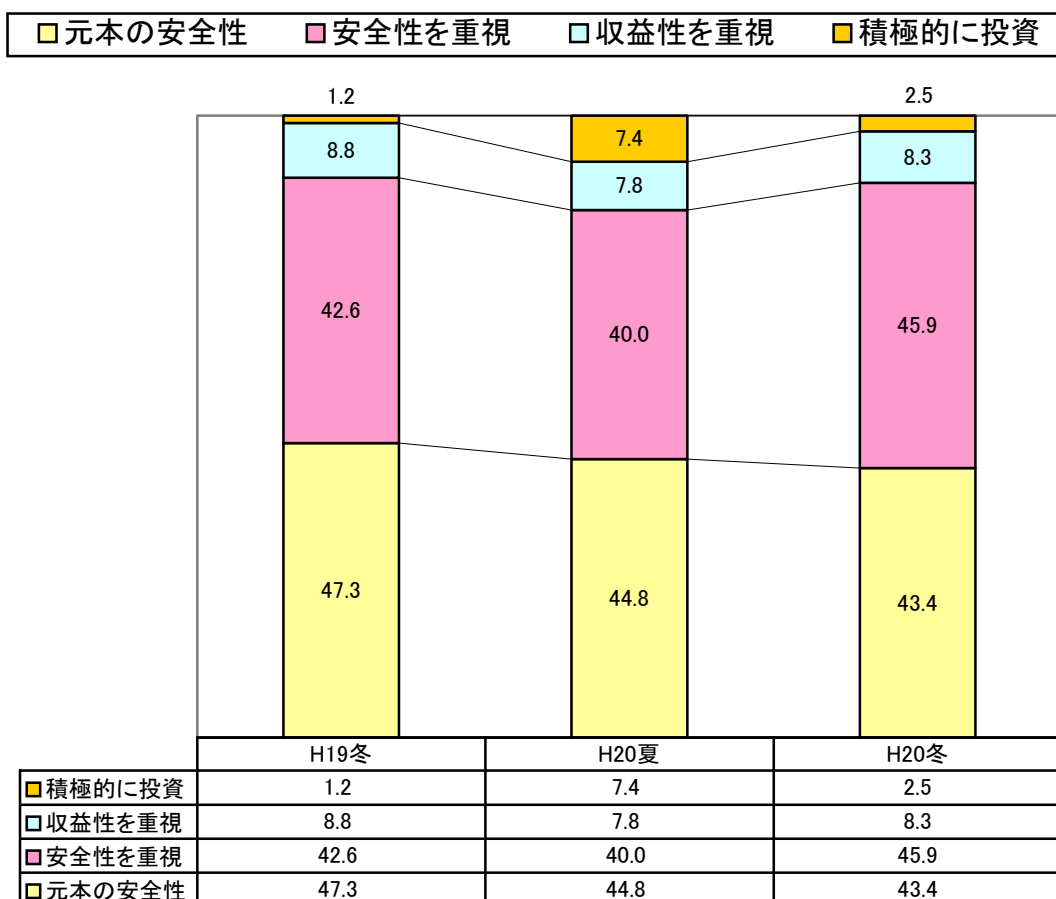
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]
（単位：％）



◆冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が 45.9%で1位。「元本の安全性を重視したい」が 43.4%で2位。

冬のボーナスを貯蓄する場合、「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が 45.9%で1位。「元本の安全性を重視したい」が 43.4%で2位。約9割弱の人が安全性に重点をおいている点に変わりはないが、平成20年夏に比べ「収益性を重視するため、積極的に投資したい」が4.9ポイント減少、「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が5.9ポイント増加。

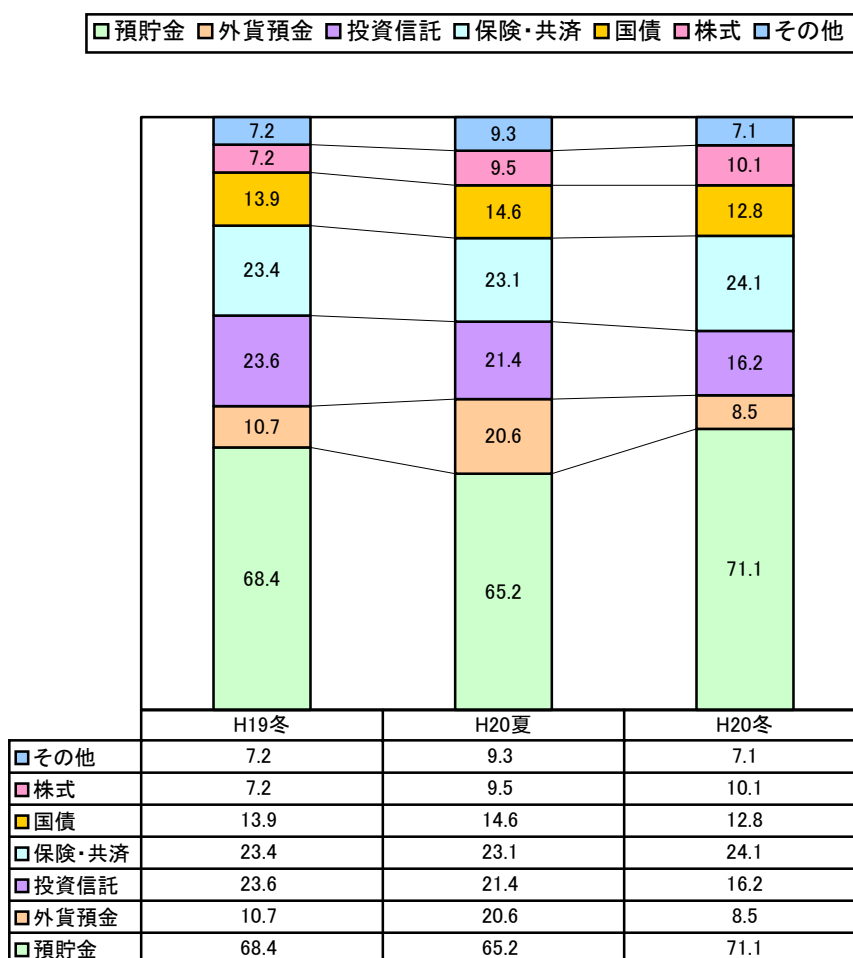
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位：%)



◆関心がある金融商品は71.1%で「預貯金」が1位。2位は「保険・共済」で24.1%。3位は「投資信託」で16.2%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が71.1%で1位。2位は24.1%で「保険・共済」。3位は16.2%で「投資信託」。世界的な金融不安や株式市場の低迷、急激な為替変動が続くなか、平成20年夏に比べ「投資信託」が5.2ポイント、「外貨預金」が12.1ポイント減少する一方、「預貯金」が5.9ポイント増加。

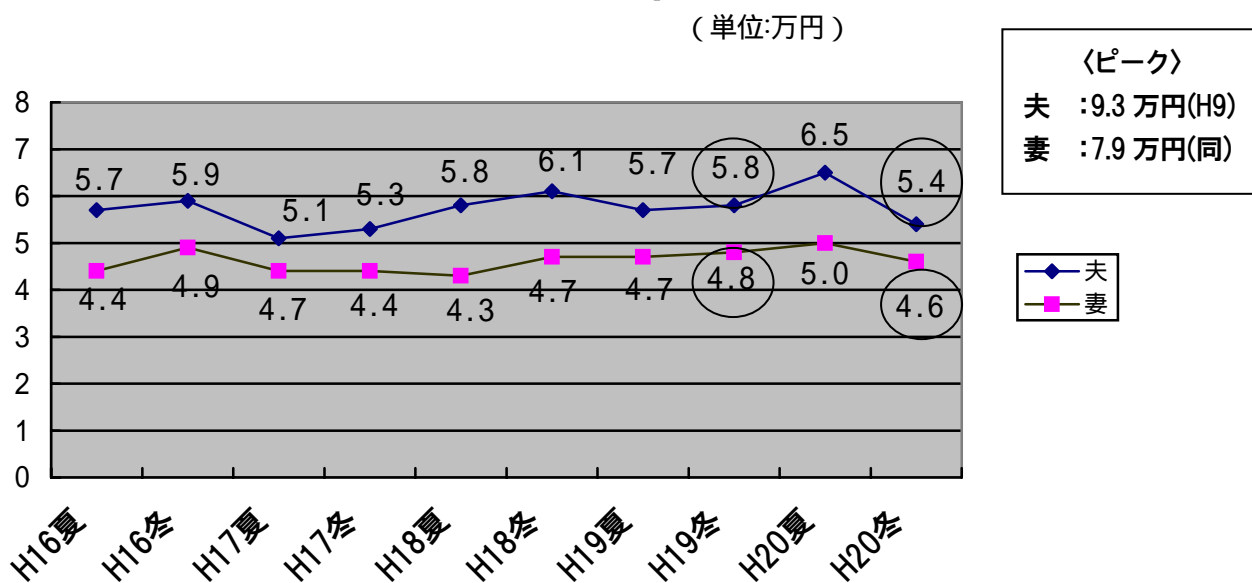
[グラフ5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]
（単位：％）



冬のボーナス、自由に使える金額は、今年の冬に比べて夫は 4 千円ダウン。妻も 2 千円ダウン。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 5.4 万円（昨年冬比 0.4 万円）、妻が自由に使える金額は平均 4.6 万円（昨年冬比 0.2 万円）。冬のボーナスが昨年より“少なくなる”との予想が増加したのを受けてなのか、自由に使える金額も減少傾向のようだ。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか]



この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺 まで
TEL 092-461-1869